



お問い合わせ／市子育て支援課(こども育成係) ☎26-5734

失敗から学ぶ

わが子が失敗したり、落ち込んだり、怒られたりする姿を見たくないという気持ちや親自身の経験から、子どもができるだけ失敗しないように手を貸したくなることは誰にでもあると思います。ただ親が子どもを一生サポートし続けることはできませんから、失敗してしまう日はいつかやってきます。

例えば、朝寝坊をして遅刻してしまったり、子どもは「起こしてくれなかったからだ」と怒るかもしれませんが、でも、誰かのせいにして怒っても、朝寝坊をして遅刻するという問題は解決できないのです。問題を解決するには、子ども自身が「自分で早起きができていれば遅刻しなかった」と反省し、どうすればいいのかを考え、実行しなければいけません。

しかし「自分で早く起きる」というゴールに向けて、どうすればいいかわからない子もいるでしょう。そんな時、大人はその子に合わせた小さな目標を一緒に考え、その目標が達成できたらたくさん褒めましょう。これを繰り返しながらできることを増やし、最終的には自分でできるように見守りましょう。

大人はよく「どうしてできないの」と言ってしまうがちですが、子どもは大人が叱責すると「失敗すると怒られる」と記憶し、自分で新しいことにチャレンジすることを怖がるようになります。

失敗は成長するチャンス。大切なのは失敗しないことではなく、失敗したときに子どもが自分の力で考え、乗り越える力を身に付けることなのです。

あんしん 消費生活

46

「保険金で住宅修理を勧める」手口にご注意

住宅火災保険などはその契約内容によって、風害雪害などの補償が受けられる場合があります。その保険金の範囲内で修理するので自己負担がないなどと強調し、保険金請求と住宅修理の契約を一連で結ぶよう勧誘する工事業者がいます。修理費用の見積もり金額が保険金額より高かった

ため修理契約の解約を申し入れたところ、保険金の半額を解約金として請求された」「修理代金として前払いしたが、工事着工しない」「損傷は経年劣化によるものだが、自然災害が原因とすその申請をするよう勧められた」などの相談が寄せられています。勧誘の話をうのみにしないで、保険内容を自分で確認しましょう。

●お問い合わせ／市消費生活センター
(市役所1階まちづくり推進課内) ☎26-5761

東北公益文科大学

キャンパスレポート

Campus Report 10

情報科目合同発表会を開催します

加藤 恭平 (3年)

公益大では2年次まで必修科目で基本的なコンピュータプログラミングを学び、さらに深く学びたい場合は情報特別選抜を履修できます。私はこの選抜科目を履修していますが、その中の一つの情報処理特講では、「情報技術をいかに有効に活かすか」を学ぶことを目的に、グループに分かれ社会に役立つものに応用できるプログラムの作成を行っています。また酒田商工会議所の「酒田Wi-Fiタウン化計画」と連携して酒田市の情報化に取り組むプロジェクトも立ち上げました。

これら情報特別選抜で作成したプログラムや卒業論文、優秀な基礎プログラミング作品を紹介する情報科目合同発表会を1月22日(火)に公益ホールで行います。どなたでも無料で入場できますので、公益大生の力作をぜひ見に来てください。



問東北公益文科大学広報担当 ☎41-1117

●お問い合わせ／市介護保険課事業管理係 ☎26・53363

認知症でも
自分らしくいられる場所

認知症の症状に最初に気付くのは、本人と言われています。物忘れによる失敗や、今まで普通にできていた仕事がうまくいかないことなどが多くなり「何かおかしい」と感じる混乱から、さまざまな症状が現れます。認知症は誰にでも起こりうる脳の病気で治すことはできませんが、緩和することはできます。症状を上手に緩和することで、その人らしい生活を続けることができます。

- 【認知症の症状緩和のための接し方】
- 物忘れや失敗を叱ったり否定したりしない
 - 現実とは違っていても、本人の主張を受け入れる態度で接する
 - 本人の役割や習慣などができることは継続し、自信と楽しみを持たせる
 - 日中は何かに興味を持ち、夜はゆっくり睡眠できるように生活リズムを整える

認知症の方には、安心感が持てるコミュニケーションが大切であり、また住み慣れた地域や自宅が一番安心できる場所です。家族や地域の理解と気遣いがあれば、穏やかに暮らすことができます。

しかし、一人暮らしの場合や同居の家族が仕事などで留守になるなど、認知症の方の一人の時間が長くなると心配なことも多くなります。その場合は「小規模多機能型サービス」や「認知症対応型デイサービス」などの地域密着型のサービスを利用してください。利用人数が少人数で、認知症の研修を受けた専門のスタッフによる個別対応も受けやすく、その人らしさを大切にしたいサービスが受けられます。

認知症の方に対する接し方や理解しようとする心、また自分らしくいられる場所で生活できるように支えていくのも、私たち一人ひとりの重要な役割です。

火災・救急
情報

火災のない安心な街に

住宅火災から尊い命や財産を守るため、普段からの心構えがとても大切です。火災を早期に発見し、逃げ遅れを防ぐための住宅用火災警報器の設置、火災を拡大させないための家庭用消火器の設置、防災製品の使用、地域全体で放火をさせない環境づくりを行うなど、安心して暮らせる街をみんなでつくりましょう。

閩消防本部予防課 ☎61-7113

12月の火災件数	1件
●前年同月に比べて	1件の増
12月の救急件数	408件
●前年同月に比べて	8件の減
平成24年中の火災件数	34件
●平成23年に比べて	8件の増
平成24年中の救急件数	4,398件
●平成23年に比べて	218件の減

環境ニュース

閩市環境衛生課環境保全係 ☎31-0933

ホームタンクの
バルブ、閉めましたか

暖房器具を使用することが多くなる冬は灯油などが漏れ出し、河川などに流れてしまう事故が多発します。その原因の多くは不注意による人的ミスによるもので、一般家庭のホームタンクや事業所のタンクからの給油作業中に起こっています。

灯油が流出してしまった場合、水道水源の汚染や周辺環境への影響はもちろん、火災の原因になることも考えられます。また流出した油を回収する費用は、油を流出させた原因者が責任を負うことになります。

- ホームタンクなどから灯油を小分けするときは、終わるまで絶対にその場を離れない
- 配管の場所には目印を立てて、除雪作業時の配管の損傷を防ぐ
- タンク本体や脚部、バルブや配管のさび・損傷を点検して、悪い所は修理する。また落雪によるタンクの転倒や配管の破損・脱落に注意する
- 防油堤がある場合は亀裂や水抜き栓の閉め忘れに注意する
- ◆油が流出してしまったら、消防、警察、市環境衛生課の各所へ通報してください。

ごみ情報 12月のごみ量 … 3,089トン ◆前年同月に比べて 4.6%減